

玉井先生

ご無沙汰をしてしまいました。辰巳用水の歴史を読ませていただきました。なかなか、言葉の一部が方言のせいで、入ってこなくて、やや困難もありましたが、歴史的な辰巳用水の管理、運営に関して勉強になりました。特に管理の重用性、地域での協力の不可欠、そして水管理が営々と引き継がれて今日の繁栄のもとになっていることなど、大いに参考となりました。

ちょうど、伊藤がカンボジアで取り組んでおります地域も、まさに、農業用水をいかに確保するか、戦いが始まったばかりで、今年は溜池を建設して乾季に農作物の収穫を目指しております。水の確保が地域の方々の生活はもちろんのこと、地域の成り立ちまでも変えてしまう現実を目のあたりにしております。

現地の次のステップで、大規模溜池と農業用水路の建設、水利組合の構築を目指しており、地域の方々と未来を想像しながら、一つずつ、解決しようとしております。

カンボジアは 1993 年に内戦が終わり、民主政権が誕生しました。それから30年弱経過しておりますが、地方は、まだ日本の昭和 30 年代で、やっと電気が通り、車が走るようになったところで、これから発展するところにあります。

ちょうど、このようなところでしたの、辰巳用水の歴史は、大いに参考となりました。

地域の人たちが如何にして水を守ってゆくか、そのような意識をいかに育てられるかがポイントかとも思いました。

伊藤一正

2020 年 6 月 28 日

埼玉県新座市在住

特定非営利活動法人アジアの誇り・プレアビヒア日本協会 副理事長・事務局長、

東京都市大学大学院総合理工学研究科客員教授、

前：(株)建設技術研究所国際部技師長